

少年サポートルームの立ち直り支援における 大学生ボランティアの役割

○石井寿美礼¹・平 伸二²

(¹ 福山大学大学院人間科学研究科・² 福山大学人間文化学部)

警察，教育委員会，青少年センターで運営する少年サポートルームでは，立ち直りが必要な少年たちに対し，さまざまな体験や学習を，少年問題を専門とする警察職員や少年警察ボランティアたちと一緒にすることで，コミュニケーションを学び，ルールを守る社会の一員としての成長を促すという目的のもと，少年の健全育成に取り組んでいる。その活動に参加している少年警察ボランティアの中でも，特に少年と年齢の近い大学生ボランティアは，少年の身近で目標にしやすく，少年にとって良い影響を与えると期待されている。そこで，大学生ボランティアが非行少年の立ち直りに果たす効果に関して，少年サポートルームを利用する少年たちに調査を実施し，検討する。

方法

調査対象者 平成 2X 年度より新たに広島県警の少年対策課の支援対象となっている少年 5 名を調査対象とした。調査対象者の保護者への同意に関しては，少年の非行の防止及び健全な育成に資するとともに少年の福祉を図ることを任務とする警察職員である少年育成官の協力を得た。

参加同意書 本調査において，調査対象者が未成年であることから，保護者の方に対して調査への参加同意書に自筆で署名をしてもらった。また，少年に関しては，調査者（第 1 著者）が少年に調査の実施についての説明をし，同意を得た後，参加同意書に自筆で署名をしてもらった。

調査用紙 竹内・小島（2013）で使用された向社会的行動尺度及びソーシャルサポート尺度を基礎とし，村川（2012）の向社会的行動尺度も参考に作成した質問紙を使用した。

手続き 同意書に関しては，少年サポートルームへの参加以前の保護者や少年へのコンタクトが取れないことから，事前にそれぞれの少年の担当育成官から少年の保護者に，調査協力を依頼した。保護者の方の了承が得られた後，参加同意書に必要な事項の記入についても依頼した。少年たちが少年サポートルームに参加する直前と最終日

に，調査者（第 1 著者）が直接少年と一対一で調査を行った。

結果及び考察

調査を実施した少年 5 名の向社会的行動尺度の平均得点の変化を図 1，各サポート源におけるソーシャルサポート尺度の平均得点の変化を図 2 に示す。

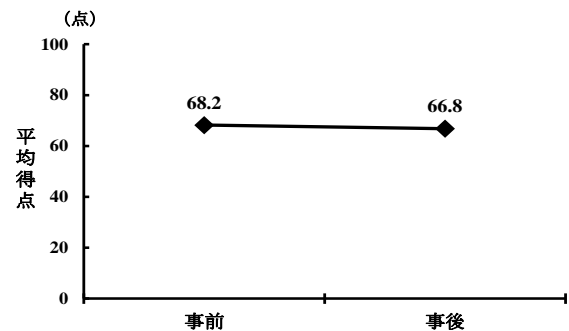


図 1 向社会的行動尺度の平均得点の変化

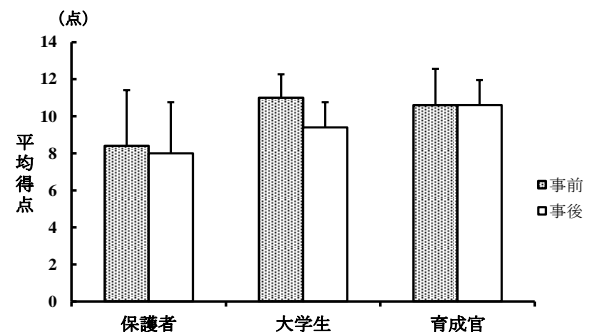


図 2 ソーシャルサポート尺度の平均得点の変化

向社会的行動尺度及びソーシャルサポート尺度の各サポート源の事前・事後において t 検定を行った結果，いずれも有意差は見られなかった。また，図 2 から事前・事後の得点が保護者よりも大学生ボランティア及び育成官の方が高かった。特に，大学生ボランティアに対する事前の高得点は，より高いサポートへの期待と考えられる。一方，育成官は少年と接する時間が大学生ボランティアよりも多く，少年たちと関わることへの専門性も高く，事前・事後の得点が一貫して高くなった可能性がある。これらを踏まえ，今後も調査対象を増やして研究を実施していきたい。